

第15回国際カイアシ類学会，広島開催が決定！！

カイアシ類は微小な水生甲殻類で，プランクトンとして有用魚介類の最も重要な天然餌料であり，海洋，陸水の生産を支えている重要な動物です。サンマ，イワシ類は一生通じてカイアシ類を餌としていますし，マダイ，マグロなども稚魚の時にはカイアシ類を主要な餌として摂取しています。一方，ウオジラミを代表とする寄生性カイアシ類は世界の養殖業に甚大な被害を及ぼし，サケ類養殖だけでもその被害額は年間約500億円に達するとも試算されております。本竹原ステーションのHPにも様々なカイアシ類の情報，画像がありますので是非ご覧ください (<http://fishlab.hiroshima-u.ac.jp/digital/kaiasi/kaiasi-toha/kaiasi-toha.html>)。

このような学術的，産業的な重要性を鑑み，世界のカイアシ類研究者が国際カイアシ類学会を設立し，第1回国際カイアシ類学会が1981年，アムステルダムで開催されました。学会のHPは以下をご覧ください (<http://www.monoculus.org>)。

それ以降，基本的に3年毎に世界各地で開催して学問の発展と社会への還元，国際交流を図って来ました。通算15回目となる本学会が，カイアシ類学の世界の拠点の一つである日本・広島で開催されることが正式に決定いたしました(2020年8月28日)。ラトビアとの決戦投票を見事に勝ち抜きました。開催年についてはコロナ禍の影響で第14回(南アフリカ)が2021年に延期になったことから，第15回は2024年に開催されます。学会に先立ち，学生向けのワークショップを当竹原ステーションで開催する予定にもなっています。詳細が決定次第，続報を掲載いたします。みなさん，どうぞ奮って参加ください。(文責 大塚 攻)

